



吉川弘文館

戦後日本歴史学の基礎



# 月刊雑誌 日本歴史

創刊号～150号《電子版》 (分売不可)

日本歴史学会 編集

『日本歴史』は、戦後まもない1946年に創刊された。以来70余年、2020年2月現在861号を数える。研究史上の重要論文、研究動向を伝える座談会など、まさに「戦後日本史研究の基礎を築いた」創刊号から150号(1960年12月号)までの電子版。



通常セット価格 (分売不可)	同時1アクセス(本体)	同時3アクセス(本体)
	¥286,000	¥429,000



2021年3月31日まで  
発売記念特価!!

同時1アクセス(本体)	同時3アクセス(本体)
¥220,000	¥330,000

〈商品コード: 1031476959〉

● 表示価格は税抜きです。

2020年2月

「日本歴史」は、内容豊富な日本史専門の月刊雑誌として、  
また最も親しみやすい歴史知識の普及誌として、  
日本史関係の学生・研究者はもちろん、社会科の教員や  
一般の歴史愛好者まで、幅広く愛読されている雑誌です。

第二次大戦の敗戦後、歴史学界は永年の禁縛が解けて百家争鳴とも言うべき状況が現出した。紙不足のその時代においては、それらの諸論考を掲載すべき専門誌は少なく、新聞や雑誌など、紙面のあるに乗じてその意見なり研究成果なりを吐露したのであった。

その中において、昭和二十一年六月に『日本歴史』が創刊された。その編集方針は左右に偏らず、しかも幅広い研究業績を包含して、正しい歴史知識の普及に努めることにあつた。そこで研究者だけではなく、歴史愛好者にも親しまれる雑誌としての性格づけがなされた。創刊当時においては、諸般の事情から月刊を貫くこともできず、発行所もしばしば変更しなければならぬ時期もあった。

しかし内容を随さない編集方針や当事者の努力によって、戦後続出した多くの雑誌が廃刊に追い込まれた中であつて『日本歴史』に期待を寄せる人が多くなり、次第に読者も増加したのであった。かつ本誌に掲載される論文は、学界において基準とされる研究水準を示すものと見なされるようになった。

その一方において、編集母胎としての日本歴史学会の基礎も固まり、発行所も吉川弘文館に移ってからは経営上の心配もなくなり、内容の充実とともに読者も増加し、日本歴史学の専門誌としては最大部数の発行をみるに至つたのである。その間に、多くの名論文が掲載されて、学界での論争の端緒となつたものもあれば、学説として定着したものもある。

また、本誌はしばしば座談会を催して、事宜に応じた問題を採り上げ、それぞれの専門家の意見の開陳を求めたり、歴史教育に関する問題点の指摘を掲載したこともある。「書評と紹介」や「雑誌論文目録」などのほかに、「文化財レポート」によって、史跡などの指定物件やその内容を紹介したり、「歴史手帖」や「研究余録」で研究者の珍しい観点や史料の提供を受けるなど、日本歴史の全体についての眼くばりを忘れないようにしてきた。

前述したような状況で、初期の発行部数は少なく、今日それをまとめて求めることは極めて困難で、ほとんど不可能に近いのである。どうかこの機会に、戦後十五年間の日本歴史学界の推移発展の跡を探り、その間に掲載された論考を通じて新しい研究への足がかりとしていただければ幸いである。

日本歴史学会会長 児玉 幸多

※本稿は平成2年(1990年)2月に『日本歴史』創刊号(昭和21年6月号)～150号(昭和35年12月号)の復刻版の刊行にあたって、当時の日本歴史学会の児玉幸多会長によって著されたものを抜粋したものである。その後も『日本歴史』は毎月刊行が続けられ、令和2年(2020年)2月現在、通巻861号に至っている。

THE NIPPON-REKISHI  
史歴本日  
創刊  
6  
1942

日本歴史学会編集  
日本歴史  
12月号

日本歴史

目次

1942年11月のいづれ  
新刊誌の調査について  
大石 謙三 著

1942年11月のいづれ  
新刊誌の調査について  
大石 謙三 著

1942年11月のいづれ  
新刊誌の調査について  
大石 謙三 著

検索機能で  
さらに便利!

目次・本文の検索が可能です。  
ご活用ください!

電子版で  
どこでも閲覧!

電子版なので  
気軽に閲覧できます!



●本文テキストデータの一部に検索が不完全な部分がございます。ご了承ください。

2020年2月